

テーマ：『ビオトープと井野山の自然を結ぶコン虫たち』

福岡県糟屋郡宇美町立宇美小学校3年

Tel.092-932-0069

担当者 中筋宗司・佐藤祥江・吉田昌平



■実践内容

宇美小学校では、自然環境を調査し、学校や学校のまわりにある身近な自然を守り、大切にしようとする学習を行っている。具体的には、理科の学習で出会うコン虫の生態を3年生が中心となって調査活動を行っている。学校にあるビオトープは、作られてから5年ほど経過しているが、まだまだ、自然の状態に近いとはいえないので、ビオトープをより身近な自然環境に近づけるためにコン虫の種類や数を増やそうと、総合的な学習の時間を活用して、近くにある井野山にいるコン虫の生態を調べ、学校のビオトープに放虫できるコン虫をゲストティチャーの先生と探す活動を行っており、生態の調査と身近な山である井野山がコン虫をたくさん育てている山であることを、その植物生態とすみかの関係を調べる活動を行っている。

■実践成果

子どもたちは、学校の近くにある井野山に入った経験があまりない。まして、学校のビオトープや学校のまわりにもコン虫が生息する自然環境も少ない状況である。コン虫を見つけたり、育てたりすることが大好きな子どもたちであるが、身の回りにある身近な自然に対する関わりが少ないのである。そのような状況の中で、このようなコン虫調査の活動を行ったことは、井野山での生息状況の違いに目を向けることができ、身近なところにある井野山にもたくさんのコン虫がいることにあらためて驚きの様子が見られた。これら子どもたちのコン虫を見つめる活動を通して、生き物への見方が深まってきた。

■実践ポイント

子どもたちのコン虫に対する見方（生態や種別）を深めること、より身近な自然に触れ合うことを通して自然環境に目を向けさせることで、小さな生き物の「命」や「自分の命」をも見つめ直すことができる。また、自然の中で生かされている自分自身を見つめ、自然を大切にしたい気持ちを育むことができる。